

（ 熊本県立水俣高等 ） 学校 平成 29 年度学校評価計画表（定時制）

<p>1 学校教育目標</p> <p>「平成 29 年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」等を踏まえ、本校の校訓「自律・敬愛・創造」の具現化に努め、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、徳・知・体の調和のとれた全人教育の実践を目指すとともに、防災型コミュニティ・スクールをとおして防災教育の充実を図る。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>本年度の指導の重点スローガン・・・「学校総合力 右へ上へ ～Above and Beyond～」</p> <p>(1) 教育活動全般をとおして他者を思いやり、秩序ある学校生活を営む態度を育成する。</p> <p>(2) 心身の健康を保持増進する力を段階的に高め、体育的活動をとおして、自らスポーツに親しみ、体力を高める態度を育成する。</p> <p>(3) 生徒一人一人の特性や学力にあった学習活動を展開し、教育機器等の効果的な利用を図り、自ら学ぼうとする意欲や態度を育てる。</p> <p>(4) キャリア教育の視点に立ち、検定等の受検を積極的に勧め、面談等の指導等の工夫、充実により個々の能力・進路目標に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <p>(5) 面談等を活用し生徒理解に努め、生徒一人一人の特性を早期に把握するとともに、働きながら学ぶ環境を整え、個々のニーズに応じた指導を計画的に行う。</p> <p>(6) 学校の教育活動や生活状況を保護者に周知するとともに、状況に応じて保護者等との連絡を適切に図り、課題解決に向けて組織的に予防的対応に努める。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理による学校運営の推進	学校目標の理解と重点指導の徹底	年度末の本評価で、B 評価以上が全体の 9 割以上とする。	校長のリーダーシップのもと、全職員が一体感を持って組織的に取り組む。10 月に、中間評価を実施する。	B	目標や課題を明確にしなが ら全職員で共有し、組織的な 取組ができた。今後は次年度 を見据え、目標達成に向けた 連携を更に深めていく必要 がある。
	安全で安心して学習できる教育環境づくりの推進	安全点検と緊急事態対応及び防災教育の徹底	教室及び施設等の安全点検と校内危機管理マニュアルを踏まえた具体的訓練・研修を各学期に実施する。	教頭と総務部・保健部が、熊本地震の教訓を生かした防災訓練や職員研修を企画・立案し、全職員で取り組む。	B	学校運営協議会を全日制の 防災主任と協力して開催す ることができた。 水俣高校・水俣市合同防災訓 練、定時制夜間防災訓練や地 震・津波が発生した場合の命 を守る学習を実施すること ができた。また、合同防災訓 練後の研修では、実際に取り 組んだ中で得られた成果と 課題について話し合うこと ができた。
	学校改革の推進	風通しの良い職場環境づくりと健康管理の促進	全職員による検討会を、年間 2 回以上実施し、課題の共有と業務の改善を図る。超過勤務時間を、月平均 20 時間未満にする。	報告・連絡・相談の徹底と気軽に相談できる環境づくりを促進し、コミュニケーションを密にする。衛生委員会でも超過勤務時間等を分析・検討し、業務改善に全職員で取り組む。	B	検討会を実施することで職 員間で共通理解し学校全体 として取り組むことができ た。業務の改善までには至 っていないが、職員の健康 管理については概ね達成で きた。
	生徒理解の推進	生徒理解と課題・指導の共有化	学期に 1 回以上、生徒理解のための研修会を実施し、情報を共有しながら、生徒一人一人に応じた的確な指導を実践する。	教務部・生徒指導部・保健部が立案し、全職員で連携して課題解決に取り組む。	B	年間 5 回の生徒理解研修を 行い、各々が連携して立案 運営した。このことにより 生徒一人一人が抱える課題 を職員全体で共有し、解決 にむけて取り組むことがで きた。

学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	全職員が、それぞれ1回以上の研究授業を行う。また、ICTを積極的に活用し、視覚的な教材の工夫を行う。	教務部が立案し、全教科で取り組み、保護者や近隣の中学校等へ公開実施の周知を行う。また他校の公開授業に積極的に参加するなど、教師の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し、授業改善に努める。	B	全職員がそれぞれ1回以上の研究授業を行い、授業力の向上を図った。公開授業週間についての周知の在り方には検討が必要である。他校の公開授業や研究会へは積極的に参加することができた。
	基礎学力の向上	数学入門・基礎国語・基礎数学・基礎英語など、学校設定科目の充実	各学校設定科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。	教務部が立案し、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出す。	B	各学校設定科目の中で、中学校での学び直しを行った。実施教科が特定されるため、キャリアアップ講座を実施し、基礎学力の向上を図った。
キャリア教育(進路指導)	個に応じた進路指導の推進	進路目標の明確化と進路決定率や就労率の向上	卒業予定者の進路決定率を、100%に高める。また、在校生の就労率を60%に高める。検定受験を積極的に勧める。	卒業学年にあつては、学期ごとに進路面談を実施する。また進路部と担任との連携を深める。商業科目を中心に課外学習等を実施する。	B	就職希望者の進路が未決定の者がおり、現在も求職活動中である。在校生の就労率については、担任と連携し、面談等を充実させることで、昨年度よりも58%と高くなった。
	進路意識の高揚	インターンシップや進路講話などの実施	未就労者対象のインターンシップの実施。講話等は各学期1回程度は実施する。	進路部が立案し、外部機関との連携を密にし、全職員で取り組む。	B	効果的なキャリア教育を実践することができた。次年度も個別指導を中心として、各行事に取り組む。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	自転車・原付・自動二輪・自家用車の運転に関して、交通ルール、交通道徳を守る。	生徒会活動や学校行事(交通安全教室等)において、生徒指導部を中心に、生徒職員全体で取り組む。	B	自動車学校と連携し、さまざまな場面を想定しての交通安全教育を夜間の校内で実施した。生徒が交通道徳を理解し交通ルールを遵守するよう徹底したい。
		言葉遣い、時間厳守等の基本的な生活習慣の確立	それぞれ異なる課題を持つ生徒に対し基本的な生活習慣の改善を目指す。	生徒指導部を中心に、毎日の活動の中で職員間の共通理解を図り、生徒職員全体で取り組む。	B	職員間の共通理解に基づいた取組により、全体的に落ち着いた生活ができている。保護者や関係機関との連携も深め、更なる改善を図る。
	健康教育の推進	禁煙指導・薬物乱用防止の徹底	喫煙者の減少、薬物使用の根絶を目指し、指導を行う。	喫煙の状況調査と健康に関わる講話を実施し、生徒指導部と保健部との連携により取り組む。	B	学校薬剤師を招いての薬物乱用防止教室を実施し、薬物の恐ろしさを知らせることができた。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	年間計画の作成と職員研修の実施による人権意識の向上	特別活動(LHR)での研修会の実施と授業計画表を作成する。外部団体の研修に参加する。	人権・特別支援委員会が立案し、学校全体で取り組む。全日制の人権教育主任と連携し、校内研修の充実を図る。	B	全職員が年2回の職員研修会に参加することができたが、校外での研修会への参加については少々偏りが見られた。
	「命を大切にす る心」を育む指 導の推進	「命」や「生きる こと」の考察と おした自己肯定感 と他を思いやる心 の育成	「命」の大切さの認識による自己肯定感の向上と良好な人間関係を構築させる。	学校行事(特設LHRや総合的な学習の時間など)や普段の授業においても、全職員で常に意識して取り組む。	B	生徒理解研修や連絡会をと おして、生徒の情報の共有を 図り、それぞれの行事も計画的 に実施できた。
	教科指導におけ る取組の推進	「分かる授業」の 工夫と改善	生徒の課題に応じた学習指導の工夫をする。	教務部と協力して、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」を全教科・全職員で取り組む。	B	授業評価についてのアンケートを年間2回実施した。「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」全教科、全職員で授業に取り組んだ。
いじめの防止等	いじめの未然防止と重大事態への対応	いじめ防止対策委員会及び校内委員会を中心とした全職員での取組	いじめを積極的に「認知」し、全職員での情報共有と迅速な対応を心掛け、いじめ解消100%に取り組む。	「いじめを許さない宣言文」や標語などを作成し、「いじめを許さない学校づくり」を心掛ける。学期に1度「学校生活についてのアンケート」等を実施し、いじめの早期発見に努めながら、全職員でいじめの解消に取り組む。	B	6月の「心のきずなを深める月間」においては、アンケートの実施や「いじめ防止標語」の作成をした。また、学年ごとにテーマを設けたLHRを実施した。年間をとおして生徒の課題に応じた情報の共有を図ることができた。

特別支援教育	生徒の教育的ニーズに対応した支援の推進	個々の生徒に応じた支援計画の実施と、適切な指導の充実	支援を要する生徒の理解を深め、個に応じた支援を推進する。生徒、保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。	生徒理解研修や日々の連絡会をとおして職員への啓発を行い、生徒の実態を把握し、スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら支援の検討を行い実施する。	B	合理的配慮協力員の指導のもと、個別的教育支援計画を作成した。連絡会等で生徒の状況を密に報告しあうことで、組織的に支援にあたることができた。
環境教育	地域と連携した環境教育の推進	「環境都市みなまた」実現のため学校版環境ISOの取組	全日制と連携を図り、学校版環境ISO宣言項目を徹底した活動を行う。	宣言項目を基に生徒指導部を中心に生徒・職員全体で取り組む。	B	生徒・職員で取り組むことが出来たが、教室不使用時の消灯やゴミの分別について課題が残った。
	学習環境の整備と推進	学校生活を快適にするための環境づくり	教室や多目的室等の清掃活動を毎日実施する。環境美化意識強化週間を設け、意識向上と実践の定着を図る。	エコスクールチェックシートを活用し、環境美化に関する意識を向上させ、生徒・職員全体で取り組む。	B	毎日の清掃活動は習慣化され、短時間で手際よくできるようになった。しかし、清掃活動に消極的な生徒も数人いた。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	家庭・地域への防災型コミュニティ・スクールと定時制教育の周知	防災型コミュニティ・スクールとしての防災システムの構築	熊本地震を生かした防災教育の充実	地域と連携した防災訓練を実施するなど、地域と一体となった災害時の連携体制や防災システムを構築する。	B	水俣高校・水俣市との合同避難訓練を実施し、定時制の生徒も参加することができた。
		学校行事を通しての定時制教育活動の広報と周知	学校行事をとおして、定時制教育の地域への発信を図る。HPを最新情報にするため、行事後すぐに記事を作成し、更新を行う。	生徒指導部・教務部と連携して、定通総体・定通文化大会・文化祭等に取り組む。副校長・教頭・教務部・総務部を中心に取り組む。	C	学校HPの更新は、年度途中より滞り、随時記事を更新できなかった。全国生活体験発表や商品開発等の活躍をメディアや市の広報誌へ記載し、地域に向け、生徒の状況を発信することができた。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	学校での様子を保護者に伝えるため「定時制だより」を発行し、月末統計に同封する。また、各学期の終業式への参加案内を行う。	総務部を中心に、生徒の様子が見える内容での作成に取り組む。LHRへの保護者の参加を促し、保護者相互の交流の場とする。	C	定時制だよりについては、学校での様子を伝える内容での作成はできたが、記事の担当を分担する必要がある。各学期の終業式への保護者参加は増えているが、保護者の交流機会を設けるところまで至っていない。

<h4>4 学校関係者評価</h4> <p>○進路指導と部活動の充実に期待している。</p> <p>○センター試験を受けるだけの力を生徒は付けてきているのか。</p> <p>○学校評価の中で人権教育に関する項目の評価が高い。水俣高校の取組が中学校でも学びになっている。</p> <p>○組織では、報告・連絡・相談+「確認」が必要である。</p> <p>○新入生保護者の気づきアンケートなど、3年間をとおして一人一人を大切にされた教育がなされており、大変素晴らしいと思う。課題研究発表会や学校行事、合唱祭など校外での生徒の活躍の姿に接する機会が多く、うれしく思う。</p>

<h4>5 総合評価</h4> <p>(1) 学校教育目標について 互いを認め、励まし、個性を高め合う教育を推進するため、各種行事での生徒の参加率を高め、生徒の自発的な活動を促し、生徒と職員がともに汗を流しながら学ぶ教育を実践してきた。定時制文化祭での地域の方の来場も多く、生徒が地域の企業と連携し開発をしてきた商品も好評で、販売実習の中で生徒たちは達成感を得ることができた。一部には自己肯定感の低い生徒もいるが、それぞれの生徒に応じた的確な指導を実践している。</p> <p>(2) 本年度の重点目標について 生徒の学習習慣や生活習慣の定着及び働きながら学ぶ環境を整えることによる自立心の育成に力を注いだ。また、定時制商業科の利点を生かし、昼間に企業との商品開発に関する打ち合わせや、地域の調べ学習を行うなど、特色のある教育を実践することで、生徒の意欲の向上につながった。一方で、学習に対する意欲が見られない生徒もおり、学び直しを徹底することにより生徒に達成感を味わわせ、基礎学力の向上と定着を図っている。進路指導においては、進学及び就職を希望している生徒についてはほぼ進路希望を達成しているが、100%には至らなかった。</p> <p>(3) 自己評価総括表について</p>

各種行事において、職員の共通理解のもと生徒の自主的な活動を促し、活発で充実した活動ができた。生徒会長のあいさつもその場に合った適切な内容のあいさつができた。

キャリア教育では、生徒の適性や特性を考慮したインターンシップを行うよう計画し、充実した職場体験ができた。

6 次年度への課題・改善方策

○今年度は、他校の研究授業や教科の研究会へ参加することで、指導力及び授業力の向上を目指した。次年度はより多くの職員が参加し、自己研鑽に努め、基礎学力向上のために本校における授業を充実させていく。

○生徒理解研修を充実させ、生徒の状況をより深く把握し、一人一人に合った適切な生徒指導と支援を実践する。また、教育相談、特別支援教育コーディネーターを中心に、入学前の生徒の中学校と連携し、系統的に適応指導につなげる。

○定時制教育が更に充実するよう、職員一丸となり教育活動に取り組む。